

第1回ホリスティック医療塾 報告書

テーマ：代替医療をどう活かすか

日時：2011年1月29日（日） 午前11時～午後0時30分

場所：関西医科大学滝井学舎 本館会議室

コーディネーター：愛場庸雅（日本ホリスティック医学協会関西支部）

日本ホリスティック医学協会関西支部では、医療従事者のためのセミナー「ホリスティック医療塾」を開催致しました。このセミナーの目的は、ホリスティックな視野、考え方をを持った医療従事者の養成です。多様な視点から治療やケアを考えることができ、患者やクライアントに対して適切なかわりやマネジメントができる医療従事者を育てること、またそれぞれの悩みなどの語り合いにより、気づきや明日の医療へのヒントを得ることを目標としています。少人数でお互いに顔の見える全員参加のディスカッションを、ゆっくり行うことにより、「考える」機会を持つことを重視しています。

第一回のテーマは、「代替医療をどう活かすか」としました。10名の参加者があり、職種は、医師、看護師、鍼灸師、薬剤師、など、年齢も30代から60代までと多彩で、関西支部スタッフも加わり、約1時間30分の語らいを行いました。

全員が自己紹介をした後、話題提供のためのミニレクチャー「代替医療を統合するとは？ 代替医療はなぜ、どこに効くのか？」を司会の愛場が行いました。その要点は、「ホリスティックな考え方では、医療の統合とは単に各種の治療法を併用するというものではなく、多様な視点からのものの見方を理解することである。また、ある一つの治療法は、体、心、スピリチュアリティの全てに影響している。」ということです。

このあと、ディスカッションに移りました。皆さんから出た意見を簡単にまとめると、次のようになります。

- ・代替医療をやるとしても、時間もなく、一人ではなかなか難しい。保険診療上の問題もある。一つの施設でやろうとするより、横のつながり、チーム、緩いネットワーク作りが必要である。一方で、医師や代替治療家の知識やレベルも様々なので、皆がそれを磨き、ホリスティックな理念と、一体感を持ったスタッフが必要で、そのためにはお互いが理解できる視点が必要である。地域医療に還元できるようなシステムも欲しい。

- ・人間はもともと統合されたもの、自然治癒力を持っているものである。患者

さんを見るのに、一人一人の個人の体質や生き方を全人的にみて、個人に合った治療をすることが必要で、中にはスピリチュアルなアプローチをする場合もある。患者さんとのコミュニケーションが大切である。ボランティアがコーディネーター的な役割をすることもある。

・ホリスティックとは、一つの医療哲学である。医療人類学的な視点を持つことが必要で、患者自身も自ら治療法を選択するなどの考え方も必要である。医療従事者も精神的、肉体的に健康でないといけない。

参加者の感想（アンケートから）

- ・自分と同じ考えを持った人に出会えてよかった。
- ・自分に役立った。自分が役立った。
- ・素人なので緊張したが、発言出来て良かった。実現してゆくには長い道のりがあること、答えがあるわけでないことに気付いた。
- ・関心のあることに注目されている仲間がいること。開業医の立場でどう取り入れるか、他の先生方のやり方からヒントを得られた。
- ・興味深い集まりだった。西洋医学しか知らない医療従事者に「引かれない」論議を。
- ・統合医療が寄せ集めではないことを再認識させられた。種々の人がそれぞれやっていることを知ることができた。
- ・来て良かった。今後の自分の方向性が見えた気がする。
- ・視点の異なるものをいかに合わせるか。緩いネットワークづくりができれば。
- ・これからの展開が楽しみ。

初めての試みでしたが、参加者の皆さんの積極的なディスカッションにより、場は盛り上がり、新たなネットワークの可能性も見えてきました。

第二回は、3月25日（日）に、「がんの自然寛解を考える」というテーマで行う予定です。